

ハワイ沖縄移民一世の芸能実践にみるアイデンティティ・コンフリクトの研究
—短詩を史料に用いて—

栗山新也（文学研究科 日本学）

1. 調査の目的

- i) ハワイの沖縄移民によってつくられた短詩型文学（琉歌、短歌、川柳、俳句）を収集する。
- II) 沖縄移民によってつくられた短詩型文学サークルの活動と、そこにひきよせられた人びとの集団性を明らかにする。
- III) ハワイ沖縄移民一世がのこした短詩を資料に使い、新聞資料の分析や聞き取り調査からは明らかにすることができなかった沖縄移民一世の芸能にたいする心情を明らかにする。

2. 調査概要

期間：2010年9月14日～10月4日

調査地：ハワイ大学マノア校・ハミルトンライブラリー

調査内容：仲程昌徳らによってすすめられてきた調査をもとに、沖縄移民がつくった琉歌、短歌、川柳、俳句、詩などを収集した。この調査で収集することができた資料は以下の通りに分類することができる。『日布時事』『布哇報知』などマイクロフィルム化された新聞資料から文芸欄を複写し、そのなかから沖縄出身の作家の作品をピックアップする作業に多くの時間を割いた。

- 1、『日布時事』『布哇報知』に掲載された作品
- 2、『Hawaii Pacific press』に掲載された作品
- 3、ハワイ琉歌会が刊行した歌集
- 4、その他、個人が刊行した詩集
- 5、ハワイの琉歌活動についての評論、コラムなど

3、研究成果

『Hawaii Pacific press』の創刊（1977年）とともに創作活動がさかんになった琉歌に絞って報告をおこなう。はじめに、母体となったハワイ琉歌会の特徴と会を構成する人々の集団性について述べる。次いで、ハワイ移民による琉歌の特徴と、芸能をテーマにした作品を紹介し、沖縄移民一世が沖縄芸能にたいしていただく心情を探ってみたい。

3-1、ハワイ琉歌会の特徴と集団性

- ①移民琉歌の拠点としてのハワイ
- ②会員の特徴
- ③音楽、放送とのかかわり
- ④沖縄とのかかわり
- ⑤新しい試み
- ⑥三線にのせて歌うための琉歌

3-2、芸能をテーマにしてつくられた作品

- ①ハワイ移民による琉歌の特徴
- ②芸能をテーマにした作品

4、今後の課題

さらに個人に密着した調査や新民謡の作詞活動の調査を沖縄とハワイでおこない、歌集や文芸欄にはあらわれなかった文芸活動をも視野にいれた研究をすすめていきたい。